

特集

災害に備えよう

地域の特徴を知り、早め早めの行動を



冠水した道路で、水しぶきをあげながら進む車= 2021年8月14日、佐賀市の城内通り



大雨で膝下まで冠水した佐賀市の歓楽街= 2021年8月14日、佐賀市愛敬町

地 球規模で異常気象が続き、災害の危険性が増しています。私たちが暮らす佐賀も例外ではなく、かつて「数十年に一度」といわれた大雨が毎年のように襲ってきており、「もはやこれが日常だ」と思わざるを得ないような状況です。命を守り、被害を最小限に抑えるため、私たちはどう備えればよいのか。自治体や関係機関の防災・減災に向けた取り組みを踏まえ、梅雨や台風の出水期を控えたいま、なすべきことについて考えてみました。

安易な予測は通用しない

まず自覚すべきことは、「きつと大丈夫」「大事には至らない」といった安易な予測は全く通用しないということです。佐賀県には2018年から4年連続で大雨特別警報が出され、記録的な大雨により19年、21年と甚大な被害が相次ぎました。昨年7月も大雨特別警報一步手前という大雨になり、唐津市浜玉町では土砂災害により、3名の方の尊い命が失われています。

「気温が高ければ高いほど、大気はより多くの水蒸気を含めるようになります。雨は若干降りにくくなりますが、たまりにたまってひとたび降り始めると、猛烈な雨になります」。佐賀地方気象台で気象情報官を務める高平憲一さんは、地球温暖化の現状を踏まえ、夏場の降雨の特徴をこう表現します。全国データになりますが、強度の強い雨が降る頻度(年間発生回数)は1980年ごろに比べて2倍程度に増えているそうです。

気象庁は、集中豪雨をもたらす線状降水帯が発生するおそれがある場合、気象情報の中で伝えていますが、対象地域を現在の「九州北部地方」といった地方単位から、県単位に絞り込んだ呼びかけをことし5月28日から開始します。

毎日の食事が非常食に ローリングストック って?

普段使っている食品を多めにストックして使いながら、もしものときに備えるというかしこいやりくりの方法です。



食料・飲料水

乾麺 パン 缶詰

レトルト食品 水・お茶

お菓子などの嗜好品 ミルク・離乳食

POINT!

- ローリングストック(下を参照)を行えるもの
- そのまま食べられるか、水や湯を足す程度の調理のもの
- 持ち運びに便利なもの
- 必要最小限のエネルギーや栄養素が確保できるもの

生活必需品

衣類 寝具 タオル

紙おむつ・生理用品 災害用トイレ 普段服用している薬

洗面用具 感染症対策グッズ カセットコンロ

POINT!

- いつも使用しているもの
- すぐに持ち出せる場所に保管しておく

※あくまで一例です。必要に応じて、掲載している以外のものも用意しておきましょう。

最低3日分の「市民備蓄」を

それでは、それぞれの家庭でどんな準備をすることが必要でしょうか。自分の暮らしている地域に土砂災害の危険性があるのか、浸水の恐れはどの程度なのか。まずは地域の特徴を知ることが大事です。そのためには、市町が作成・公開しているハザードマップが便利です。避難所まで安全に行くことができるのか、実際に歩いて避難ルートを確認する「防災さんぽ」など先手先手の行動が望まれます。浸水被害で日常生活が脅かされることも想定しなければなりません。佐賀市危機管理防災課は、最低3日分の食料・飲料水、生活必需品の備蓄を各家庭で行う「市民備蓄」を推奨しています。普段使っている食品を多めにストックし、使いながらもしものときに備える「ローリングストック」を心掛けてほしいと呼び掛けています。



佐賀市のハザードマップはこちらから

平 たんなる土地に強い雨が降ると、雨水がはけきらず、周囲の水も流れ込んできて浸水の規模が大きくなります。排水の役割を担う水路や河川の水位上昇も著しく、真っ先にあふれ出してしまいます。佐賀市の過去の浸水被害はこうした「内水氾濫」が中心でした。干満差が日本一大きい有明海に面し、満潮時になかなか水が引かないという宿命もあります。佐賀市は国や県と連携して浸水対策に本腰を入れていきます。ハード面で目指しているのは、排水能力や貯水能力の強化です。

田んぼダム

河川の水位上昇を緩和させる手法として、佐賀県と市町が連携して推進しているのは「田んぼダム」です。農家の協力を受け、降った雨をいったん田んぼに貯留し、緩やかに下流域に流してもらおうというものです。具体策としては、田んぼの排水口にV字形の切り口を開けた「せき板」を設置してもらいます。

佐賀市については、初年度の2022年度、佐賀江川の上流に位置する兵庫、巨勢地区の約175ヘクタールで実施し、23年度は金立、久保泉地区に拡大。本年度は久保泉地区でさらに広がり、初年度の2倍以上となる約390ヘクタールでの実施を見込んでいます。市農村環境課は最大39万立方メートルの一時貯水につながるとみています。



協力農家に配布している「せき板」。雨を緩やかに流すため、V字型の切り口が開けられている



佐賀市の浸水対策

尼寺排水機場が完成

佐賀市のハード面の取り組みは、ほかにあります。佐賀市高木瀬町長瀬には昨年、2基のポンプで毎秒3トンの排水能力がある「尼寺排水機場」が完成しました。大和町の尼寺団地とその周辺地域が浸水の常襲地帯となっていたことへの対応です。2022年には貯留容量3万3千トンの「尼寺第2雨水調整池」（大和町）の整備が完了しており、連動した効果で浸水被害軽減が期待できます。市中心部の排水対策では、新村愛敬水路（大財）の改修が完了しています。こちらは、水を流す能力が従来比で最大約14倍になり、JR佐賀駅周辺の浸水被害軽減が見込まれます。



昨年完成した「尼寺排水機場」。2基のポンプを備え、毎秒3トンの排水能力がある

佐賀城公園のお堀に貯水

市中心部の内水氾濫防止の一助になっているのは、佐賀城公園のお堀の有効活用です。梅雨の水期前に、お堀の水を事前に抜いて水位を下げ、貯留量をアップさせます。国土交通省出身の坂井英隆市長がお堀の管理者である県に協力を求めて積極的に推進。市河川防災課は2022年度の試験を踏まえ、本格運用を始めており、23年度はそれまでの取り組みと合わせ、合計最大で5万6千トン、25メートルプール約180個分以上の調整容量を確保しました。市河川防災課は、お堀の調整池としての活用をさらに進めていく考えです。



事前排水の運用を始めた佐賀城公園のお堀。市中心部の浸水被害軽減が期待される

さいがいじきんきゅうじょうほうはいしんでんわ

災害時緊急情報配信サービス

さがん電話・さがんFAX

75歳以上の高齢者のみ世帯や障害のある方、携帯電話やスマートフォンをお持ちでない世帯に対して、自動音声による電話またはFAXで緊急情報を配信します。

- サービス内容**
 - さがん電話** 機械音声の電話で緊急情報を配信、聞き直しも可能
 - さがんFAX** ファックスで緊急情報を配信

- 対象者**
 - 75歳以上の高齢者のみの世帯の方
 - 障害者手帳等を所持する障がい者等
 - 携帯電話、スマートフォンを持たない世帯の方 など

ホームページはこちら



- 配信情報**
 - ①利用者の居住地域に発令した避難情報 ②その他の緊急情報（自主避難所の開放含む）

利用料 無料

登録方法 利用申込書に必要事項を記入の上、危機管理防災課に提出
 ※郵送、FAX、メールでの提出、代理の方による記入・提出も可能です。
 ※申込書は佐賀市ホームページのほか、危機管理防災課、各支所の窓口等で配布しています。

情報収集に便利な

仕組みが登場

いざ大雨になりそうになったら情報を集めることが肝要です。自治体や関係機関は、避難の判断に役立ててほしいと、インターネットなどを活用し、便利で分かりやすい情報提供の仕組みを開発しています。今回はその中から二つを紹介します。

スマホで浸水状況をチェック



佐賀市公式スーパーアプリ



大雨時に浸水深を自動計測する標尺。このデータが地図上に表示される = 佐賀市駅前中央の新家公園

「避難したいが、どこがどのくらい浸水しているのか分からない」。こんな時、役に立つのが、佐賀市が2022年から運用を始めた新システムです。水に浸かりやすい地区の浸水状況を地図上にリアルタイムに表示する仕組みで、市のホームページや、市民へのさらなる普及を目指している市公式スーパーアプリから確認できます。

やすい地区83カ所に高さ1.2mの浸水標尺を立てています。うち29カ所については水害時の浸水の深さを自動計測できるようにしており、その結果が表示されます。大雨時にお手持ちのスマートフォンなどに画面を表示し、確認したい地点をタップすると、浸水の深さが表示されます。浸水深5cm未満を○印、5cm以上をトゲトゲの印にしているほか、浸水深に応じて紺色を濃くするなど見やすいように工夫されています。一度画面をチェックしてみてください。晴れた日は「現在は5cm以上の浸水は発生していません」と表示されます。



You Tube

危険度分布「キキクル」



一つ目は、気象庁が利用を勧めている大雨・洪水警報の危険度分布「キキクル」です。大雨でどんなキキ(危機)が迫ってくるのか。雨による災害の危険度が地図上にリアルタイムに表示され、10分ごとに更新されます。「土砂キキクル」「浸水キキクル」「洪水キキクル」の3種類があり、いずれも5段階の色分けで分かりやすく表示しており、担当者は「表示が紫色になったら、危険な場所にいる方は全員避難を」と呼びかけます。

佐賀地方気象台では、まずはキキクルの愛称を知ってほしい、それから使い方を知ってほしいと周知に努めており、ホームページでは、オリジナルの広報アニメーション「使おう！キキクル」を紹介しています。

YouTubeチャンネルで公開中のこの動画には、気象庁のキャラクター「はれるん」と、佐賀地方気象台オリジナルのキャラクターである、ムツゴロウの「ゴロロー」、カチガラスの「かっちゃん」が登場し、キキクルの仕組みを分かりやすく紹介していますが、佐賀県内で暮らす外国人の方が理解しやすいように、新たに多言語の字幕を追加しました。現在、「使おう！キキクル」Part 1(導入編)の動画については8カ国(ベトナム語、ネパール語、中国語簡体字、インドネシア語、韓国語、英語、タガログ語、日本語)の字幕を選択することができます。Part 2(解説編)についても改編作業を進めています。



キキクル ホームページ / <https://www.jma.go.jp/>

防災トピックス

災害時の気象事例を紹介

気象庁のホームページには「災害をもたらした気象事例」というコーナーがあります。佐賀県内を襲った2019、21年の大雨などを含め、過去の災害時の気象データなどを知ることができます。

災害時にパチンコ店の立体駐車場を開放

平地が多い佐賀県で、大雨や台風直撃が予想される時、どこに車を避難させたらいいのかわからない。そんな悩みを抱えている方も多いこととでしょう。佐賀県パチンコ・パチスロ店協同組合(新富和紀理事長)は、佐賀県と協定を締結し、災害時に地域住民らの車が風水害に遭わないようにパチンコ店の立体駐車場を開放しています。

組合加盟のパチンコ店は47店舗で、立体駐車場の2階以上は約4,600台分。実際に利用可能な駐車場については、甚大な被害が生じるおそれが生じた場合などにウェブサイト(防災・減災さが)でお知らせします。



スマホ充電のモバイルバッテリー、防災バッグの準備を

「災害・避難情報を入手するにはスマホが欠かせませんが、充電が切れてしまったら使えません。災害に備え、家族1人につき1個のモバイルバッテリー(携帯型充電器)の購入・準備をお勧めしています」。こう話すのは、ケーズデンキモラージュ佐賀店店長の田畑大輔さんです。

売り場には各メーカーのモバイルバッテリーがずらりと並んでいます。価格の安いものは1,000円台から。スマホ充電2、3回分の高容量タイプもあります。近年は高速充電が普及しており、それに対応するアダプタ、ケーブルの同時購入も勧められています。防災関連商品の売り上げは、災害発生直後に高くなる傾向があり、ことし1月に能登半島地震が発生した直後に購入される方も多かったそうです。

お店では、車中泊エアベッドや携帯トイレ、懐中電灯など避難時に役立つ道具30点前後をセットにした防災バッグもよく売られています。

